

1.	②	11.	②	21.	①	31.	①	41.	④
2.	③	12.	③	22.	④	32.	①	42.	③
3.	③	13.	④	23.	③	33.	③	43.	①
4.	④	14.	③	24.	④	34.	①	44.	①
5.	④	15.	④	25.	②	35.	②	45.	②
6.	①	16.	②	26.	①	36.	②	46.	②
7.	②	17.	④	27.	①	37.	④	47.	③
8.	③	18.	③	28.	①	38.	②	48.	③
9.	①	19.	②	29.	④	39.	④	49.	①
10.	④	20.	③	30.	③	40.	①	50.	①

1.

解答 ②

【解説】

正解は②「状態」です。**condition** は、人、物、場所などがどのような「状態」や「状況」にあるかを表す名詞です。例えば、**The car is old but still in good condition.**（その車は古いが、まだ良い状態だ）のように使います。①「感情」は **emotion** や **feeling**、③「結論」は **conclusion**、④「位置」は **position** や **location** が対応し、いずれも文脈に合いません。

◆補足：**condition** は「状態」の他に、「条件」という意味も持つ重要な多義語です。例えば、**One of the conditions for this job is to have a driver's license.**（この仕事の条件の一つは、運転免許を持っていることです）のように使います。また、複数形の **conditions** は、天候や周囲の状況を指して「状況、情勢」という意味でよく使われます。**The game was canceled due to bad weather conditions.**（悪天候のため、試合は中止になった）というように用いられます。

2.

解答 ③

【解説】

正解は③の **in person** です。この表現は、電話やメール、ビデオ通話といった間接的な手段ではなく、「本人が直接出向いて、対面で」何かを行うことを意味します。**You must submit the application in person.**（申込書は本人が直接提出しなければなりません）のように使います。① **by email** は「Eメールで」、② **on the phone** は「電話で」、④ **in public** は「人前で、公の場で」という意味で、いずれも「対面で」という意味とは異なります。

◆補足：**in person** は、リモートでのやり取りが増えた現代において、対面でのコミュニケーションの価値を強調する際に重要な表現です。例えば、**Some issues are better discussed in person rather than**

online. (問題によっては、オンラインではなく直接会って議論する方が良いものもある) のように、オンラインとの対比で使われることがよくあります。

3.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を拒絶する」です。reject は、提案、考え、応募者などを、不十分または不適切であるとして公式に、あるいは強く「拒絶する、却下する」という意味の動詞です。The committee rejected his proposal. (委員会は彼の提案を却下した) のように使います。①「～を選択する」は select や choose、②「～を認める」は admit や accept、④「～を提案する」は propose や suggest が対応する単語です。

◆補足：reject は、類義語の refuse よりも強い、あるいはフォーマルな拒絶を表すことが多いです。例えば、人体が移植された臓器を受け付けない「拒絶反応」も rejection と言います。このように、適合しないものをはねつける、というニュアンスがあります。語源はラテン語の re- (後ろへ) + jacere (投げる) で、「後ろへ投げ返す」というイメージが「拒絶する」という意味につながっています。

4.

解答 ④

【解説】

「同意する」という意味に最も近い英単語は④の agree です。他の人と同じ意見を持つこと、あるいは提案や計画を受け入れることを指します。例えば、「私は彼の意見に同意する」は I agree with his opinion. と表現します。他の選択肢について、① argue は「議論する、口論する」、② annoy は「～をいらだたせる」、③ arrange は「～を手配する」という意味です。

◆補足：agree は、前置詞によって意味のニュアンスが変わります。agree with a person/opinion (人や意見に賛成する)、agree on a topic (議題について合意する)、agree to a suggestion (提案に同意する) のように使い分けられます。

5.

解答 ④

【解説】

正解は④の endure です。endure は、痛みや困難、不快な状況などを、文句を言わずに長期間「我慢する、耐え忍ぶ」という意味の動詞です。The runners had to endure extreme heat during the marathon. (ランナーたちはマラソンの間、極度の暑さに耐えなければならなかった) のように使います。① escape は「逃げる」、② enjoy は「楽しむ」、③ encourage は「励ます」という意味で、文脈に合いません。

◆補足：endure と似た単語に stand や bear がありますが、endure は特に長期間にわたる困難に耐え抜くという、強さや忍耐力を強調するニュアンスがあります。名詞形は endurance で、「忍耐（力）」を意味し、endurance test（耐久試験）や endurance race（耐久レース）のような複合語でよく使われます。語源はラテン語の indurare（硬くする）で、心が硬く、困難に動じないイメージを持つと覚えやすいでしょう。

6.

解答 ①

【解説】

「やる気、動機」という意味に最も近い英単語は①の motivation です。何かを行おうとする意欲や、その行動の裏にある原因・動機を指す名詞です。例えば、「彼が留学する動機は、翻訳家になることです」は His motivation for studying abroad is to become a translator. のように使います。②「結論」は conclusion、③「栄養」は nutrition、④「招待」は invitation です。

◆補足：motivation は「動かす」という意味のラテン語 movere に由来する motive（動機）から来ています。関連語として、動詞の motivate（～にやる気を起こさせる）や、形容詞の motivated（やる気のある）も非常に重要です。

7.

解答 ②

【解説】

正解は②「小論文」です。essay は、ある特定の主題について、分析や意見などを論理的に記述した比較的短い文章のことを指し、日本語では「小論文、レポート、作文」などと訳されます。学校の課題として書くことが多いです。We have to write an essay on environmental issues.（私たちは環境問題についての小論文を書かなければならない）のように使います。①「手紙」は letter、③「詩」は poem、④「小説」は novel が対応する単語です。

◆補足：essay と似た言葉に report がありますが、report が事実を客観的に報告する文章であるのに対し、essay は筆者の意見や分析が含まれるという違いがあります。また、大学レベルで書かれるより学術的なものは paper（学術論文）と呼ばれることもあります。日本語の「エッセイ」は随筆のような軽い読み物を指すことが多いですが、英語の essay はより論理的な構成が求められる文章を指すのが一般的です。

8.

解答 ③

【解説】

正解は③の **get along with ~** です。この句動詞は、特定の人と「良い関係である、うまく付き合う、仲良くやる」という意味で使われます。She gets along with everyone in her class. (彼女はクラスの誰とも仲良くやっている) のように用います。① **get over ~** は「~を乗り越える、克服する」、② **get away with ~** は「(悪いこと) をして罰を免れる」、④ **get through ~** は「(困難な仕事などを) やり遂げる」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**get along with ~** は、日常会話で非常に頻繁に使われる重要な表現です。イギリス英語では **get on with ~** という形が使われることも多く、ほぼ同じ意味です。質問する際は、**How are you getting along with your new boss?** (新しい上司とはうまくやっていますか?) のように尋ねることができます。

9.

解答 ①

【解説】

正解は①の **get in one's way** です。この表現は、物理的に「~の進路を妨げる」ことと、比喩的に「~の計画や成功の妨げになる」ことの両方を意味します。Please move your bicycle. It's getting in my way. (あなたの自転車を動かしてください。邪魔になっています) のように使います。② **lose one's way** は「道に迷う」、③ **make one's way** は「(苦労して) 進む」、④ **give ~ a way** は一般的な表現ではありません。

◆**補足**：**get in one's way** の **one's** の部分は、邪魔をされる人に合わせて **my, your, his, her** などに変わります。例えば、His pride got in his way of apologizing. (彼のプライドが、謝罪の邪魔をした) のように、物理的な障害物だけでなく、人の感情や性格が行動の妨げになる様子を描写することもできます。stand in one's way もほぼ同じ意味で使われます。

10.

解答 ④

【解説】

正解は④の **What if...?** です。この表現は、まだ起こっていない未来のことや、実際には起こりそうにない仮定の状況について「もし~だとしたら、どうなるだろうか?」と問いかける際に使います。心配事を述べたり、提案をしたりする文脈で頻繁に登場します。What if we miss the last train? (もし終電に乗り遅れたらどうしよう?) のように使います。① **How about...?** は「~はどうですか」という提案、② **Why not...?** は「なぜ~しないのか、~してはどうか」という提案や反語、③ **What for...?** は「何のために」という目的を尋ねる表現で、意味が異なります。

◆**補足**：**What if...?** は、後に続く文の時制によってニュアンスが変わります。**What if + 現在形** の文は、未来に起こるかもしれないことへの懸念や可能性を表します (例: What if it rains tomorrow?). 一方、**What if + 仮定法過去** (動詞の過去形) の文は、現実とは異なる、より可能性の低い仮定の話をするときに使われます (例: What if you had a million dollars?). このように仮定法と組み合わせて使われることが多いのが特徴です。

11.

解答 ②

【解説】

正解は②「何とかして」です。somehow は副詞で、大きく分けて二つの意味で使われます。一つは「理由はよく分からないが、どういうわけか」、もう一つは「困難な状況でも、何らかの方法で」です。We don't have much time, but we'll get it done somehow. (あまり時間がないが、何とかしてやり遂げるつもりだ) のように使います。①「どこでも」は anywhere、③「全く～ない」は not at all や by no means、④「いつか」は sometime や someday が対応する単語です。

◆補足：somehow の二つの意味は文脈で判断します。例文で見てみましょう。1. 「何とかして」：We have to find a solution somehow. (私たちは何とかして解決策を見つけなければならない)。これは困難を乗り越える意志を表します。2. 「どういうわけか」：Somehow, the key was in my pocket. (どういうわけか、鍵は私のポケットの中にあった)。これは理由が不明な不思議な状況を表します。似た単語に somewhat (いくぶん、多少) がありますが、意味が全く異なるので混同しないよう注意が必要です。

12.

解答 ③

【解説】

正解は③の end up doing です。この表現は「結局～して（しまつて）終わる」「最終的には～することになる」という意味で、意図していなかった、あるいは不本意な行動の結末を表す際によく使われます。doing の部分には動名詞が入ります。We got lost and ended up walking for three hours. (私たちは道に迷い、結局3時間歩くことになった) のように使います。① keep on doing は「～し続ける」、② feel like doing は「～したい気分だ」、④ avoid doing は「～するのを避ける」という意味で、文脈に合いません。

◆補足：end up doing は、先に学んだ end up with ～と同じく、予期せぬ結末を表す表現です。end up with の後には名詞が来るのに対し、end up doing の後には動名詞が来て、最終的に取った「行動」を示します。例えば、I intended to study, but I ended up watching TV all night. (勉強するつもりだったのに、結局一晩中テレビを見てしまった) のように、計画通りにいかなかった状況を説明するのに非常に役立ちます。

13.

解答 ④

【解説】

正解は④の **relate** です。**relate** は、二つ以上の物事の間に「関係を見出す、～を関連づける」という意味の動詞です。It is difficult to relate these two events. (これら二つの出来事を関連づけるのは難しい) のように使います。① **remove** は「～を取り除く」、② **replace** は「～を取り替える」、③ **repeat** は「～を繰り返す」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆補足：**relate** は、**be related to** ～ (～と関係がある) という受動態の形で使われることが非常に多いです。This issue is closely related to our daily lives. (この問題は私たちの日常生活と密接に関連している) のように用います。また、名詞形は **relation** や **relationship** (関係)、形容詞形は **relative** (相対的な、親戚) で、これらは全て重要な関連語です。語源的には **re-** (後ろへ) + **late** (運ぶ) で、「持ち帰って比べる」ことから「関係づける」という意味が生まれました。

14.

解答 ③

【解説】

「教授」という意味に最も近い英単語は③の **professor** です。大学における最高ランクの教員を指します。例えば、「彼はハーバード大学の教授です」のように使います。他の選択肢について、① **producer** は「生産者、プロデューサー」、② **professional** は「専門家、プロ」、④ **prosecutor** は「検察官」です。

◆補足：**professor** は、動詞 **profess** (～を公言する) から派生した言葉です。大学で教える (**profess**) 人、というイメージです。

15.

解答 ④

【解説】

正解は④「電話を切る」です。**hang up** は、電話の会話を終えることを意味します。Don't hang up! I have something important to tell you. (電話を切らないで！大事な話があるんだ) のように使います。①「電話をかける」は **make a call**、②「電話に出る」は **answer the phone**、③「電話を保留にする」は **put ~ on hold** が対応する表現です。

◆補足：**hang up** という表現は、かつての電話機が受話器をフックに「掛けて (**hang**)」通話を終了していたことに由来します。現在のスマートフォンでは物理的に掛ける動作はありませんが、表現だけが残っています。また、**hang up** には「(服など) を掛ける」という意味もあります。Please hang up your coat. (コートを掛けてください) のように使われるため、文脈でどちらの意味か判断する必要があります。

16.

解答 ②

【解説】

正解は②の **commit** です。**commit** は、罪や過ち、あるいは自殺といった、良くない行為を「行う、犯す」という意味で使われる動詞です。It is illegal to commit fraud. (詐欺を働くことは違法です) のように使います。① **prevent** は「～を防ぐ」、③ **permit** は「～を許可する」、④ **pretend** は「～のふりをする」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**commit** は多義語で、「(罪を) 犯す」以外にも重要な意味があります。特に、**commit oneself to ~** の形で「～に専念する、献身する」という意味は頻出です。She committed herself to her studies. (彼女は研究に身を捧げた) のように使います。この意味での名詞形が **commitment** (献身、約束、責任) です。「罪を犯す」も「何かに身を捧げる」も、どちらも「自分を特定の状況に投じる」という共通のイメージから派生した意味だと考えると、理解しやすくなります。

17.

解答 ④

【解説】

正解は④「～かなと思う」です。**wonder** は、何かについて確信が持てず、「～なのだろうか」と疑問に思ったり、知りたいと考えたりする心の動きを表す動詞です。I wonder why she didn't come to the party. (彼女はなぜパーティーに来なかったのだろうか) のように使います。①「～だと信じる」は **believe**、②「～だと主張する」は **claim**、③「～だと確信する」は **be sure** や **be convinced** が対応し、いずれも高い確信度を表すため **wonder** とは対照的です。

◆**補足**：**wonder** は、I was wondering if you could ...? の形で、相手に何かを丁寧にお願いするときの前置きとして非常によく使われます。これは「もし～していただけるかなと思っていたのですが」と、自分の要望を疑問の形で控えめに伝える表現です。また、名詞としては「驚き、不思議」や「素晴らしいもの」といった意味があり、the Seven Wonders of the World (世界の七不思議) のような表現で使われます。

18.

解答 ③

【解説】

正解は③「学期」です。**semester** は、特にアメリカなどの2学期制を採用している学校(大学など)における「学期」を指す言葉です。The first semester starts in September. (最初の学期は9月に始まる) のように使います。①「休暇」は **vacation** や **holiday**、②「卒業」は **graduation**、④「宿題」は **homework** や **assignment** がそれぞれ対応する英単語であり、文脈に合いません。

◆**補足**：**semester** の語源は、ラテン語で「6」を意味する **sex** と「月」を意味する **mensis** を組み合わせた **sesternis** (6ヶ月の) という言葉に由来します。これが1年の半分を指す「学期」という意味で使われるようになりました。なお、イギリスの大学や3学期制の学校では、学期を **term** と呼ぶのが一般的です。文脈によって **semester** と **term** が使い分けられることを覚えておくとい良いでしょう。

19.

解答 ②

【解説】

英語表現「to a certain extent」は、「ある程度まで」という意味です。ある事柄が、完全ではないものの、部分的には真実であることを示す際に使われます。to some extent も同じ意味です。例えば、「彼の話はある程度までは本当だ」のように使います。選択肢①「確かに」は for certain、③「たまたま」は by accident、④「要するに」は in a nutshell や in short です。

◆補足：extent は「程度、範囲」という意味の名詞です。to a large extent（大部分は）や to what extent?（どの程度まで?）といった関連表現も重要です。

20.

解答 ③

【解説】

英語表現「it's no use doing」は、「～しても無駄である」という意味の慣用句です。ある行動をとっても、望む結果は得られない、意味がない、ということを示します。例えば、「終わったことを嘆いても無駄だ」は It's no use crying over spilled milk.（覆水盆に返らず）ということわざで有名です。

◆補足：この構文では、use の後ろには必ず動名詞（-ing 形）が来るのがポイントです。It is no good doing や There is no point in doing もほぼ同じ意味で使えます。

21.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を悟る、はっきりと理解する」です。realize は、それまで気づいていなかった事実にハッと気づいたり、状況を明確に認識したりすることを意味します。He didn't realize his mistake until it was too late.（手遅れになるまで、彼は自分の間違いに気づかなかった）のように使います。②「～を無視する」は ignore、③「～を練習する」は practice、④「～を断る」は refuse や decline が対応します。

◆補足：realize の最も重要な意味は「気づく、理解する」ですが、She finally realized her dream of becoming a doctor.（彼女はついに医者になるという夢を実現した）のように、「（夢などを）実現する」という意味でも使われます。文脈によってどちらの意味か判断する必要があります。類義語の notice は、目で見ると、耳で聞くなど五感を通して何かに「気づく」というニュアンスが強いのに対し、realize は頭で考えて状況を「理解する、悟る」という知的なプロセスを表すという違いがあります。

22.

解答 ④

【解説】

「(話題・範囲)を扱う」という意味に最も近い英単語は④の **cover** です。本や講義、報道などが、特定の主題や領域を含んでいることを示します。例えば、「この本は日本の歴史を扱っている」は **This book covers the history of Japan.** と表現します。他の選択肢について、① **carry** は「～を運ぶ」、② **convey** は「～を伝える」、③ **concern** は「～に関係する」です。

◆**補足**：**cover** は、「～を覆う」という物理的な意味から、比喩的に「(範囲を)網羅する」→「扱う」という意味に発展しました。「(ニュースを)報道する」という意味でも頻出します(例：**cover the event** その出来事を報道する)。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の **turn away** です。この表現は、人に対して入場や助けを「拒否する、追い返す」という意味で使われます。**The guards had to turn away hundreds of fans who didn't have tickets.** (警備員はチケットを持っていない何百人ものファンを追い返さなければならなかった)のように用います。① **turn off** は「(電気などを)消す」、② **turn up** は「現れる」や「(音量などを)上げる」、④ **turn down** は「(申し出などを)断る」という意味で、文脈に合いません。

◆**補足**：**turn away** は、物理的に顔をそむける動作 (**turn one's face away**) が元になっており、そこから「無視する」「相手にしない」という拒絶のニュアンスが生まれました。人だけでなく、**The company turns away from its social responsibilities.** (その会社は社会的責任から目をそむけている)のように、問題などから「背を向ける」という意味で使われることもあります。

24.

解答 ④

【解説】

正解は④の **pull off** ~です。この句動詞は、達成が難しい、あるいは不可能だと思われていた計画や芸当などを「見事にやってのける、うまくやり遂げる」という意味で使われる口語的な表現です。**No one thought he could win, but he pulled it off.** (誰も彼が勝てるとは思っていなかったが、彼は見事にやってのけた)のように用います。① **see off** ~は「～を見送る」、② **put off** ~は「～を延期する」、③ **call off** ~は「～を中止する」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**pull off** ~は、特に「驚くべき成功」というニュアンスを含みます。単に **succeed in doing** (～することに成功する) と言うよりも、そこには困難を乗り越えた達成感や、周りの人を驚かせるような意外性が含まれていることが多いです。車を「(道の脇に)寄せて停める」という意味でも使われますが、英検2級レベルでは「うまくやり遂げる」の意味がより重要です。

25.

解答 ②

【解説】

正解は②「リハーサル」です。rehearsal は、演劇、コンサート、スピーチなどの本番に備えて行われる、練習や下稽古のことを指します。The cast had a final rehearsal the day before the play opened.

(劇団員たちは、公演初日の前日に最終リハーサルを行った) のように使います。①「休憩」は break や rest、③「本番」は performance や show、④「批評」は review や criticism が対応する単語です。

◆補足：rehearsal の動詞形は rehearse で、「～を練習する、～のリハーサルをする」という意味です。例えば、The actors are rehearsing their lines. (役者たちはセリフの練習をしている) のように使います。特に、本番と同様に衣装や道具をすべて使って行う総練習のことは dress rehearsal と呼ばれ、これもよく使われる表現です。日本語でも「リハ」という言葉で馴染みがありますが、正確な意味と綴りを覚えておきましょう。

26.

解答 ①

【解説】

正解は①の exchange です。exchange は、ある物や情報などを相手に与え、その見返りに相手から同種のものを受け取る、すなわち「～を交換する」という意味の動詞です。Students from different countries exchange ideas and cultures. (異なる国から来た学生たちは、考えや文化を交換する) のように使います。② collect は「～を集める」、③ share は「～を共有する」、④ return は「～を返す」という意味で、それぞれ物の扱い方が異なります。

◆補足：exchange は、動詞だけでなく「交換」という意味の名詞としても使われます。an exchange of opinions (意見交換) や an exchange student (交換留学生) といった形でよく目にします。また、exchange A for B で「A を B と交換する」という重要な型があります。I exchanged my dollars for yen at the bank. (私は銀行でドルを円に両替した)。両替も通貨の「交換」の一種ですね。

27.

解答 ①

【解説】

正解は①の back and forth です。この表現は、一つの場所から別の場所へ、そしてまた元の場所へと「行ったり来たり」する反復的な動きを表す副詞句です。The lion walked back and forth in its cage. (そのライオンは檻の中を行ったり来たり歩いていた) のように使います。② side by side は「並ん

で」、③ **step by step** は「一歩ずつ、着実に」、④ **all at once** は「一度に、突然」という意味で、動きの様子が全く異なります。

◆**補足**：**back and forth** は物理的な移動だけでなく、議論や交渉が繰り返し行われる様子を表すのにも使われます。例えば、**The two sides argued back and forth for hours.**（両者は何時間も堂々巡りの議論を続けた）のように用いると、意見が互いに行き交う様子が表現できます。同じような意味で **to and fro** という表現もありますが、**back and forth** の方がより一般的に使われます。

28.

解答 ①

【解説】

「感謝している」という意味に最も近い英単語は①の **grateful** です。誰かがしてくれたことに対して、ありがたいと思う気持ちを表す形容詞です。例えば、「ご親切に感謝しています」は **I am grateful for your kindness.** と表現します。他の選択肢について、② **great** は「素晴らしい」、③ **graceful** は「優雅な」、④ **gradual** は「徐々の」という意味です。

◆**補足**：**grateful** の名詞形は **gratitude**（感謝）です。**be grateful to 人 for 物事**（（人）の（物事）に感謝する）という構文を覚えておくとう便利です。**thankful** と似ていますが、**grateful** の方がよりフォーマルで、深い感謝の気持ちを表すことが多いです。

29.

解答 ④

【解説】

「使命、任務」という意味に最も近い英単語は④の **mission** です。特に、どこかへ派遣されて行う、重要で特別な仕事を指します。例えば、「彼の使命はその人質を救出することだった」のように使います。他の選択肢について、① **mansion** は「大邸宅」、② **mention** は「言及」、③ **missile** は「ミサイル」です。

◆**補足**：**mission** は、宇宙飛行士の「任務」や、外交官・宣教師の「使節団」など、公的な文脈でよく使われます。また、人生における「使命、天職」といった、より個人的で重要な目的を指すこともあります。

30.

解答 ③

【解説】

「～を捨てる、見捨てる」という意味に最も近い英単語は③の **abandon** です。人や場所、物などを、責任を放棄して永久に去ることを指します。例えば、「彼は家族を見捨てた」のように使います。他の

選択肢について、① absorb は「～を吸収する」、② abuse は「～を乱用する」、④ abroad は副詞で「海外へ」です。

◆補足：abandon は、単に leave（去る）と言うよりも、見捨てられた側のネガティブな状況や、去る側の無責任さを強調するニュアンスがあります。名詞形は abandonment（放棄）です。

31.

解答 ①

【解説】

正解は①の avoid です。avoid は、人、物、状況など好ましくないものに近づかないようにしたり、関わらないようにしたりして意図的に「～を避ける」という意味の動詞です。You should avoid eating fatty foods. (脂肪の多い食べ物を食べるのは避けるべきです) のように使います。② seek は「～を探し求める」、③ attract は「～を引きつける」、④ face は「～に直面する」という意味で、いずれも avoid とは逆の方向性を持つ動詞です。

◆補足：avoid の後には、名詞または動名詞 (-ing 形) が続きます。avoid to do のように to 不定詞を続けることはできないので注意が必要です。例えば、「間違いを犯すことを避ける」は avoid making mistakes となります。この文法的な特徴は非常に重要なので、必ず覚えておきましょう。名詞形は avoidance（回避）です。語源は古フランス語の esvuidier（空にする）で、「場所を空けてそこから離れる」というイメージが「避ける」につながっています。

32.

解答 ①

【解説】

正解は①の remain です。remain は、他のものが変化したり去ったりした後も、同じ場所や状態で「とどまる、残る」という意味の動詞です。Despite the argument, they remained good friends. (口論はあったが、彼らは良い友達のままでいた) のように使います。② change は「変わる」、③ leave は「去る」、④ become は「～になる」という意味で、いずれも変化を表すため、remain とは逆の概念になります。

◆補足：remain は、He remained silent. (彼は黙ったままでいた) のように、後ろに形容詞や名詞を置いて「～のままである」という状態の継続を表す、第 2 文型 (SVC) で使われることが非常に多いです。また、名詞として複数形の remains で使うと「残り物」や「遺跡、遺体」といった意味になります。The remains of the ancient city were discovered. (古代都市の遺跡が発見された)。この名詞の用法も重要なので併せて覚えましょう。

33.

解答 ③

【解説】

正解は③の **turn in** ~です。この句動詞は、宿題、レポート、書類などを、先生や上司といった権限のある人に「提出する」という意味で使われます。Please turn in your assignments by Friday. (金曜日までに課題を提出してください) のように用います。① **turn over** ~は「~をひっくり返す」、② **turn off** ~は「(電気などを) 消す」、④ **turn on** ~は「(電気などを) つける」という意味で、文脈に合いません。

◆**補足**：**turn in** ~とほぼ同じ意味で **hand in** ~も使われます。どちらも口語的で日常的によく使われる表現です。よりフォーマルな場面で「提出する」と言いたい場合は、**submit** という動詞が適切です。また、**turn in** には全く異なる意味として「寝る、床につく」という用法もあります。例えば、I'm tired, so I think I'll turn in early tonight. (疲れたから、今夜は早く寝ようと思う) のように使います。この場合、目的語は取らず自動詞として機能します。

34.

解答 ①

【解説】

「~を囲む」という意味に最も近い英単語は①の **surround** です。ある物や場所の周り全体にある、という状態を表します。例えば、「その家は高い塀で囲まれている」は The house is surrounded by a high wall. のように受け身で使われます。他の選択肢について、② **survive** は「生き残る」、③ **surface** は「表面」、④ **sound** は「音」です。

◆**補足**：**surround** の名詞形は **surroundings** で、「環境」を意味します。語源は、ラテン語の **super-** (上に、超えて) と **unda** (波) で、「波が上から覆う」というイメージが「囲む」につながっています。

35.

解答 ②

【解説】

英単語「**damage**」は、「損害、被害」という意味の名詞です。物や人の身体の一部に与えられる、物理的な害を指します。例えば、「台風による甚大な被害」は **serious damage from the typhoon** と表現します。選択肢①「危険」は **danger**、③「踊り」は **dance**、④「夢」は **dream** です。

◆**補足**：**damage** は、原則として数えられない不可算名詞です。複数形の **damages** は、法的な文脈で「損害賠償金」という意味になるため、注意が必要です。動詞としても「~に損害を与える」という意味で使われます。

36.

解答 ②

【解説】

「できるだけ～」という意味に最も近い英語表現は②の **as ~ as possible** です。形容詞や副詞を挟んで、可能な限りの程度で何かを行うことを示します。例えば、「できるだけ早く」は **as soon as possible** と表現します。他の選択肢について、① **as well as** は「～と同様に」、③ **as long as** は「～する限り」、④ **as soon as** は「～するとすぐに」という意味の接続詞句です。

◆補足：as ~ as possible の possible は、you can のように「主語 + can/could」で置き換えることもできます。例えば、Come as soon as possible. と Come as soon as you can. はほぼ同じ意味です。

37.

解答 ④

【解説】

正解は④「緊張している」です。nervous は、試験やスピーチの前など、これから起こることに対して心配や不安を感じ、「緊張している、あがっている」状態を表す形容詞です。I always get nervous before giving a presentation. (私はプレゼンテーションの前はいつも緊張します) のように使います。

①「怒っている」は angry、②「退屈している」は bored、③「興奮している」は excited が対応します。

◆補足：nervous と似た単語に anxious がありますが、nervous が特定の出来事に対する一時的な「緊張」を表すことが多いのに対し、anxious はより漠然とした、あるいは長期的な「心配、不安」を表す傾向があります。また、excited は「ワクワクしている」というポジティブな感情を表すのに対し、nervous はネガティブな、落ち着かない気持ちを表すという違いがあります。

38.

解答 ②

【解説】

英単語「tutor」は、個人またはごく少人数の生徒に対して特定の科目を教える人を指します。例えば、「両親は私のために数学の家庭教師を雇ってくれた」は My parents hired a math tutor for me. のように使います。①「講演者」は lecturer、③「科学者」は scientist、④「翻訳家」は translator です。

◆補足：tutor は「(個人) 指導をする」という動詞としても使われます。一般的に多くの生徒を一度に教える teacher や、大学の教員である professor とは区別されます。tutor による指導は tutorial (チュートリアル) と呼ばれます。

39.

解答 ④

【解説】

英単語「stressful」は、「ストレスの多い、精神的にきつい」という意味の形容詞です。多くの心配や困難を引き起こし、人を緊張させるような状況や仕事を指します。例えば、「ストレスの多い仕事」は a stressful job と表現します。選択肢①「成功した」は successful、②「力強い」は powerful、③「感謝している」は grateful です。

◆補足：stressful は、名詞 stress（ストレス、圧力）に、性質を表す接尾辞 -ful が付いた形です。be stressed out（ストレスで疲れ果てている）という表現もよく使われます。

40.

解答 ①

【解説】

英単語「subject」が名詞として使われる場合、「主題、テーマ」や「教科、科目」といった意味を持ちます。例えば、「会議の議題」は the subject of the meeting、「好きな科目」は my favorite subject のように使います。選択肢②「物体、対象」は object、③「計画」は project、④「地下鉄」は subway です。

◆補足：subject は、動詞として使うと /səb'dʒekt/ と後ろにアクセントが置かれ、「～を服従させる」という意味になります。また、実験などの「被験者」という意味も重要です。

41.

解答 ④

【解説】

正解は④「聴衆・観客」です。audience は、コンサート、演劇、講演、映画などを見る、あるいは聞くために集まった人々の集団を指します。The audience gave the pianist a big hand.（聴衆はそのピアニストに大きな拍手を送った）のように使います。①「出演者」は performer や cast、②「主催者」は organizer や sponsor、③「批評家」は critic が対応します。これらは皆、公演に関わる人々ですが、役割が異なります。

◆補足：audience の語源は、ラテン語の audire（聞く）にあり、元々は「聞く人々」つまり「聴衆」を指しました。このため、ラジオの聴取者や講演の聴衆など、「聞く」ことが中心の場合に特にしっくりくる単語です。一方、スポーツの試合などを見る観客は spectator と呼ばれることが多いです。ただし、現在では audience が劇場や映画館の観客全般を指す言葉として広く使われています。

42.

解答 ③

【解説】

「一般的に」という意味に最も近い英語表現は③の in general です。これは「概して」「全体的に見て」という意味で、特定の例外を除いた全体的な傾向を述べるときに使われます。例えば、「一般的

に、この地域の気候は温暖です」は **In general, the climate in this area is mild.** のように用います。① **in detail** は「詳細に」、② **in advance** は「前もって」、④ **in particular** は「特に」という意味です。
◆補足：**in general** は、**generally** という副詞一語で言い換えることも可能です。類義表現として **on the whole** や **as a rule** などもあります。対義語である **in particular**（特に）とセットで覚えておくと、話の展開をスムーズにする上で役立ちます。

43.

解答 ①

【解説】

「～を担当して、～の責任者で」という意味に最も近い英語表現は①の **in charge of** です。ある仕事や活動、人々の管理について、責任を持つ立場にあることを示します。例えば、「誰がこのプロジェクトの責任者ですか」は **Who is in charge of this project?** と尋ねます。他の選択肢について、② **in case of** は「～の場合には」、③ **in favor of** は「～に賛成して」、④ **in front of** は「～の正面に」という意味です。

◆補足：**charge** は多義語ですが、この表現では「責任、管理」という意味で使われています。**be in charge of ～** の形で使われることが非常に多いです。

44.

解答 ①

【解説】

英単語「**definitely**」は、「間違いなく、確かに」という意味の副詞です。疑いの余地なく、ある事柄が真実であることを強調します。例えば、「彼は間違いなくパーティーに来るだろう」は **He will definitely come to the party.** と表現します。選択肢②「繊細に」は **delicately**、③「意図的に」は **deliberately**、④「喜んで」は **delightedly** です。

◆補足：**definitely** は、形容詞 **definite**（明確な）の副詞形です。語源はラテン語の **finis**（終わり、境界）で、「境界を定めてはっきりさせる」というイメージが核となっています。類義語の **certainly** とほぼ同じ意味で使えます。

45.

解答 ②

【解説】

正解は②の **there is no doing** です。この構文は「～することは不可能だ」という意味を表し、ある行為が物理的、あるいは状況的に不可能であることを強調します。**There is no telling what will happen in the future.**（将来何が起こるかは、誰にも言うことができない）のように使います。① **it is no use**

doing は「～しても無駄だ」、③ feel like doing は「～したい気分だ」、④ be worth doing は「～する価値がある」という意味で、doing (動名詞) を使う構文ですが意味が異なります。

◆補足：There is no doing は、It is impossible to do...という表現を、より簡潔かつ慣用的に言い換えたものです。特に、know (知る)、tell (言う、わかる)、deny (否定する)、predict (予測する) といった、認識や伝達に関する動詞と共に使われることが多いのが特徴です。There is no denying the fact that... (～という事実は否定できない) は、ディベートや評論文などで頻出する定型表現です。

46.

解答 ②

【解説】

正解は②の would rather do です。この表現は、複数の選択肢がある中で「(～するよりは) むしろ～したい」という好みを表す際に使います。I would rather stay home than go out tonight. (今夜は外出するより、むしろ家にいたい) のように、than ~と比較する形でもよく使われます。① be able to do は「～することができる (能力)」、③ had better do は「～した方がよい (忠告・警告)」、④ be willing to do は「進んで～する、～するのをいとわない (意志)」を意味し、いずれも「好み」を表す表現ではありません。

◆補足：would rather do の後ろには、動詞の原形が来るのがポイントです。主語が異なる場合の願望を表す際には、would rather + 主語 + 動詞の過去形 の形を取ります (例：I'd rather you didn't smoke here. ここでタバコを吸わないでいただくとありがたいのですが)。これは仮定法の一つで、控えめな願望や依頼を表します。would prefer to do も似た意味を表しますが、would rather の方がより口語的です。

47.

解答 ③

【解説】

「疑い」という意味に最も近い英単語は③の doubt です。何かが真実かどうか確信が持てない気持ちを指します。例えば、「疑いの余地なく」は without a doubt と表現します。他の選択肢について、① debt は「借金」、② drought は「干ばつ」、④ draft は「下書き」です。

◆補足：doubt の発音は /daʊt/ で、b は発音しない黙字である点に注意が必要です。動詞としても「～を疑う」という意味で使われます。形容詞形は doubtful (疑わしい) です。

48.

解答 ③

【解説】

英語表現「a couple of 〜」は、「2、3の〜」という意味です。正確に2つというよりは、「いくつかの、少数の」という、やや曖昧な数を表す口語的な表現です。例えば、「数日前に」は a couple of days ago と表現します。選択肢①「〜の対」は a pair of 〜 で、通常は2つで1組のものを指します。②「〜の一部」は a part of 〜、④「〜の種類」は a kind of 〜 です。

◆補足：couple は元々、夫婦や恋人などの「カップル」を意味することから、「2つ」というイメージが根底にあります。厳密に2つとは限らないのがポイントです。

49.

解答 ①

【解説】

「ぜひとも」という意味に最も近い英語表現は①の by all means です。相手の依頼や質問に対して「ぜひどうぞ」「もちろんいいですよ」と快く許可を与えたり、強い同意を示したりする際に使われます。② by the way は「ところで」、③ by no means は「決して〜ない」、④ by chance は「偶然に」という意味です。

◆補足：by all means は非常に丁寧で肯定的な響きを持つ表現です。対義語は③の by no means で、「いかなる手段によっても〜ない」→「決して〜ない」という意味になります。この二つは形が似ているため混同しやすく、セットで覚えておくことが重要です。

50.

解答 ①

【解説】

「経済学」という意味に最も近い英単語は①の economics です。経済の仕組みや動きを研究する学問分野を指します。他の選択肢について、② economy は「経済」というシステムそのものを指します。③ ecology は「生態学」、④ electronics は「電子工学」です。

◆補足：economics は、-ics で終わる学問名の一つで、politics（政治学）や physics（物理学）などと同様に、単数として扱われるのが一般的です。形容詞形 economic（経済の）と economical（経済的な、お得な）の使い分けも頻出のポイントです。
